



それでも諦めない憲法改正？

改憲派議員多数の今通常国会でも世論は改憲を許しませんでした。しかし安倍総理は逃げるように閉会したとたんに憲法改正をまた主張。「そこまでの執念」とも言えるし、彼の掲げた政策がとことん自分自身のせいで潰れてきたため、衰えた求心力を保つために打ち出せるのはこれしかないとも言えるのではないのでしょうか。

コロナにかこつけて緊急事態条項を憲法に書き込もうという改憲の目論みは与党内からも批判を受けました。

しかしそれでも国会閉会後の会見でこう主張

「自民党は憲法改正に向けて、緊急事態条項を含む4つの項目について、既に改正条文のたたき台をお示しています。緊急事態への備えとして、我が党の案に様々な御意見があることも承知しています。各党、各会派の皆さんの御意見を伺いながら進化させていきたい。建設的な議論や協議を自民党は歓迎します。

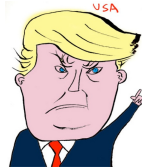
しかし、国会の憲法審査会における条文案をめぐる議論は、残念ながら今国会においても全く進みませんでした。今、目の前にある課題を決して先送りすることなく解決していく。これは私たち政治家の責任です。」

◇秘蔵っ子として育てようと無理に無理を重ねて当選させ大臣にまでしたのに、選挙違反が次々暴露され、それでもかばい続けた河井前法務大臣夫妻もついに逮捕。



◇党内でもポスト安倍への動きが活発になっているようです。もし総裁の座を失ったら、その後は地位だけでなく自らの身も危ない、と検察庁長官もお友達で固めて身の安全を図ろうとしたけれど失敗しました。

◇頼りの米大統領トランプ氏もコロナや人種差別で民心が離れ、助けになりそうもありません。



◇防衛、軍事が売り物なのに、イージスアショアも突如撤回という惨めな結末になり、辺野古の基地も目途が立たず、アベノミクスで景気が良くなるなどいままや誰も考えていません。安倍政権は袋小路です。

いまこそみんなが声を挙げて、「九条を守れ!」「安倍政権NO!」

新型コロナウイルス メモ

新型コロナウイルスの特徴を整理してみました (6月30日)

- 感染者：死者は世界で1000万人：50万人。最大はアメリカで250万人：12万人、次いでブラジルは130万人：5万7千人。日本は1万6800人：972人。
- 日本やアジアでは感染者が少ないが、原因は不明。
- ウイルスはそれ自体では移動もできないし、自己複製もできないので生物とは言えない。
- 動物の体内に入り、粘膜の細胞の中に入りこんで何百倍にも増殖してから細胞の外に飛び出すので、潜伏期間が長く、あるとき一気に感染し症状が悪化する。
- コロナウイルスの名は形が王冠に見えることからラテン語で王冠CROWNを表す「コロナ」の名がついた。
- 大きさは細菌よりも1~2桁くらい小さい粒子。
- コロナ型ウイルスはインフルエンザなどたくさんある。問題のウイルスをコロナと略するのは良くないが一般に使っている。学名はCOV-D-19。
- 粒子の外側はエンベロープと呼ぶ膜で覆われ、脂質なのでアルコールや石鹸で溶ける。手洗いは汚れを落とすだけでなくウイルスを不活性化する効果がある。
- 2002年のSARS、2012年のMERSなど10年おきくらいに、コロナウイルスの新たな大感染が起こっている。
- 臨床症状は、頭痛、高熱、倦怠感、咳などのインフルエンザ様症状から、重症例では呼吸困難を主訴とする肺炎に進行する。高齢者がかかりやすいような報道があったが最近では若年層にも多い。
- 感染者同士の接触、感染者のくしゃみや咳、呼吸でつばなどの飛沫と一緒にウイルスが放出され、別の人がそのウイルスを口や鼻から吸い込み感染する。接触も。
- コロナウイルスは動物と人間の双方に感染する。
- 風邪と同様大人の上気道粘膜から体内に入ることが多いが、進んで気管や肺に入ると重症化する。
- 現在のところ治療薬やワクチンはないが、異例の超スピードで研究開発が進んでいる。
- PCR検査で、このウイルスを保有するかどうかはわかるが、日本では検査体制が進んでいない。
- 抗体検査により、罹患したことがあるかどうかは分かるが、最近の研究では、一定期間後に抗体が消滅するかもしれないと言う。一定数の罹患し、抗体保持者が増えて流行は止まると考えられたが、疑問符も。
- 無症状者からの感染もある。そのため発熱など症状がある人だけを隔離しても完ぺきではない。

答辞も送辞もなし、「君が代」だけは…… コロナ禍の卒業式 都教委の異常さ

2003年、当時の石原慎太郎都知事の指示で東京都教育委員会は卒業式などの儀式で日の丸を掲げ君が代を歌わせよという通達を都立学校に出しました。その後都教委は儀式の目的をさておいて、日の丸・君が代を徹底するために、教育委員会の総力を挙げて監視に出向くなど、実施を強制してきました。それに抵抗した教職員、のべ500人近くを処分してきました。

新型コロナウイルスのため、今春の卒業式そのものが実施できなかったところも多かったのですが、こんななかでも都教委は次のような有様です。（都教委に処分された教職員を励ます会の機関紙「リベルテ」からの抜粋です。）

新型コロナ騒動の中で安倍政権が突如、小中高校、特別支援学校の全国一斉休校を要請し、学校現場は大混乱に陥りました。都教委は卒業式に関しては「感染拡大防止のため」と称して「参列者の制限と時間の短縮」を前提に実施するとしました。



これを受け都教委は2月28日、指導部指導企画課長名で「事務連絡①」を発出し「国旗を掲揚できなかった場合」や「国歌を含め…斉唱や合唱を行わなかった場合」を「本年度に限り、…不適切な状況として取り扱わない」としました。

ところが同日数時間後、同課長名で都立学校長宛に「事務連絡②」を発出し、「国旗国歌の取り扱いについては、『国旗掲揚の下に、体育館で実施する』『国歌斉唱を行う』という方針に変更ありません」と指示しました。事務連絡①が、僅か数時間後に事務連絡②に変えられたのです。まさに「朝令暮改」です。

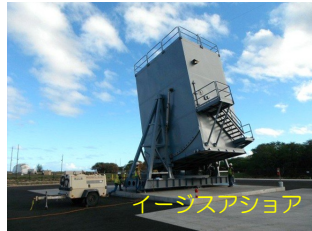
その結果、これまでの式次第にあつた校歌斉唱、保護者代表謝辞、卒業生代表答辞、在校生代表送辞、式歌（卒業の歌）斉唱、などをカットし、①国歌斉唱、②校長式辞、③卒業証書授与などに縮小して実施した学校も多く出ました。「感染防止」と言いながら、何が何でも「君が代」だけは歌わせる。生徒・教職員の命と健康よりも「君が代」斉唱を優先する都教委の異常さが浮き彫りになりました。

主役のはずの卒業生を全く無視したこの卒業式。これが「教育委員会」？ 石原知事に始まった、この異常な都教委の姿勢は小池知事になっても変わりません。小池知事は関東大震災の際にいわれる朝鮮人大虐殺の犠牲になった人びとの慰霊からもわざわざ手をひくという人権感覚の持ち主。

イージスアショア撤回

河野太郎防衛相は6月15日、イージス・アショア配備計画「停止」を突然表明し、その後計画撤回と確認しました。

イージス・アショアは北朝鮮のミサイルに対抗するためとしてトランプ米大統領の強い要求で安倍内閣が導入することを決めましたが、一基1350億円と超高額で、設置費や維持費など合わせれば2基5000億円とも言われます。その目的は日本を守るというよりアメリカに飛んでいくミサイルを日本上空で止めるための装備なのに、米国からの爆買いと批判が強かった装備です。



地元の合意もないまま配備を決め、説得に努めましたが、秋田、山口の県知事を含め地元の反対が強く、説明会への不誠実な対応や資料のデータ偽造などでいっそう不信を買っていました。

推進力を強くするためブースターロケットを途中で切り離して捨てますが、その落下点が民家になる危険を指摘され、防衛省は落下点をコントロールできると苦し紛れに答弁しました。ところがそのような機能はなく、新たに付与すれば設計のし直しで莫大な時間と費用がかかるということになって今回の配備撤回になったという説明です。

「日経ビジネス」で海上自衛隊司令官香田洋二氏は「イージスは米海軍が空母の艦隊防空のために開発した技術で、ブースターの地上落下先を考える必要がない。その落下制御が極めて困難なことは容易かつ十分に予見できた」。問題は「大きく2つあります。第1は、厳しい言い方になりますが、国民を守るための組織である防衛省や自衛隊が、国民に「うそ」まで言って導入を強行してはならない、ということ。第2は、現時点で判断するとレーダーの選定がずさんだったことです。」

防衛省は技術的な問題にすり替えています。計画撤回は地元民を無視した計画に粘り強い闘いを続けた結果です。道理のない安倍政治に対して団結して戦えば勝てると勇気を与えてくれます。

問題は「大きく2つあります。第1は、厳しい言い方になりますが、国民を守るための組織である防衛省や自衛隊が、国民に「うそ」まで言って導入を強行してはならない、ということ。第2は、現時点で判断するとレーダーの選定がずさんだったことです。」

防衛省は技術的な問題にすり替えています。計画撤回は地元民を無視した計画に粘り強い闘いを続けた結果です。

道理のない安倍政治に対して団結して戦えば勝てると勇気を与えてくれます。

おおたかの森駅宣伝と署名

7月9日(木) 15:30~16:30

(6月から再開しました)

カンパはこちらの郵便振替口座へ
00130-5-464735 口座名 九条の会流山

「九条の会・流山」の会員（ニュース読者）

拡大を。ご紹介くだされば話しに伺います。

入会金・会費は不要。ニュースを読んでいただける方を増やしたいのです。